

【道徳・小5・「思いやりの心」（教材名「バスと赤ちゃん」） B 親切、思いやり】①

育成を目指す資質・能力（内容項目と指導の観点・ねらい）

【親切、思いやり】 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。

【ねらい】 満員のバスの中で泣き叫ぶ赤ちゃんを取り巻く「お母さん」「バスの運転手」「乗客」のそれぞれの立場の相手を思いやる気持ちを考える活動を通して、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるようにする。

ICT活用のポイント

児童全員の考えをスムーズに共有し、意見交流を図ったり自分の考えを深めたりすることができる。

事例の概要

【導入】

「相手を思いやる」ことについて自分の体験を思い起こす。

【展開】

3人の登場人物の気持ちを追い、道徳的価値に迫る

乗客の拍手にはどんな返事が込められていたでしょうか。

【終末】

思いやりの心をもつことの大切さについて自分の考えをもつ。

【事例におけるICT活用の場面】

○ プレゼンテーションソフトを使用する。

・ 付箋紙の活用。

人の感情を付箋紙の色ごとに設定し、登場人物や自分の気持ちを端的に示すとともに、詳しい説明や理由を文字で添えられるようにする。

（例：黄…「うれしい、楽しい…」、水色…「悲しい、さみしい…」など）

・ 児童一人一人の顔を撮影した画像を活用。

自分の顔写真を示すことで、自分が考えを発表したことを意識できるようにする。

・ フレームを分割して活用。

「お母さん」「バスの運転手」「乗客」の3つにフレームを分割し、それぞれの立場で考えた児童の考えを瞬時に俯瞰したり考えの変化を確かめたりできるようにする。

【道徳・小5・「思いやりの心」（教材名「バスと赤ちゃん」） B 親切、思いやり】②

【事例におけるICT活用の場面】

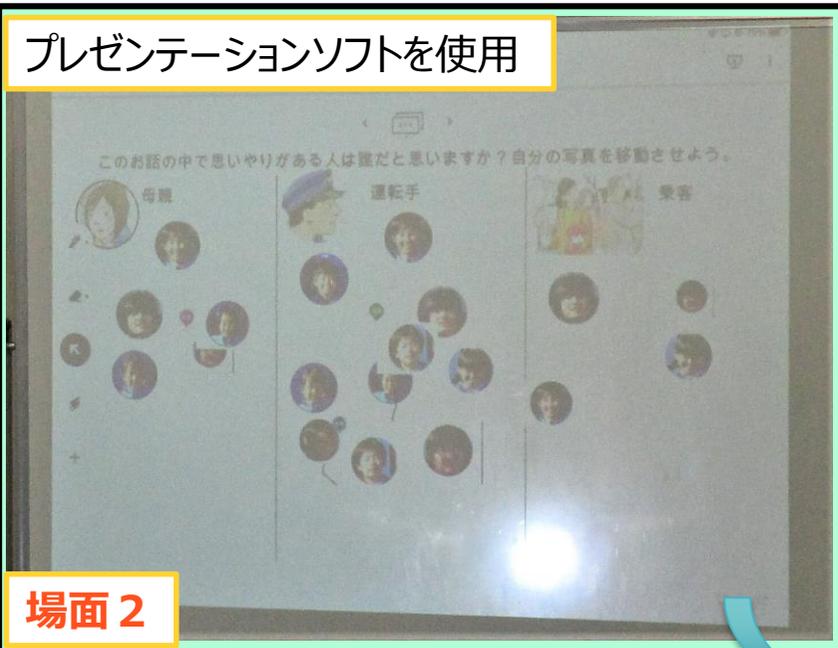
プレゼンテーションソフトを使用



場面 1

- 泣き叫ぶ赤ちゃんを取り巻く「母」「乗客」の立場になって、その時の気持ちを考える。
- 2者の関係性を明らかにした上で、それぞれの事象の原因や理由を考えたり、2者を比較したり、自分の考えを深めたりできる。
- 児童は登場人物の気持ちを表す色付きの付箋紙を使うことで、大まかな感情を示し、付箋紙には具体的な気持ちを記すことができた。教師は、児童の進捗を随時確認でき、中心発問に迫る考えを持っている児童に意図的な指名をすることができた。

プレゼンテーションソフトを使用



場面 2

- 「母」「運転手」「乗客」の立場で中心発問の前後の自分の考えや友達の考えの変化を捉える。
- 自分の考えがどのように変わった（変わらない）かを分析したり、友だちの考えの変化を捉え、その要因を確かめたり自分の考えに反映させたりできる。
- 自分の考えを変えた児童がおり、その児童の顔写真の動きを注視して見守る児童が多数いた。教師は、授業の終末に向けて、考えを変えた児童と考えが変わらない児童の意見を意図的に抽出して発言を求め、意見交流を図った。

Check!

- ・操作の習熟
（日常の授業でのデジタルホワイトボードの活用）
- ・画面の見やすさ
（地の色と提示する画像等の色）
- ・文字の見やすさ
（付箋紙に書く文字数）